令和元年駒ヶ根市教育委員会 第13回定例会議事日程

1. 告示年月日 令和元年11月15日(金曜日)
2. 開催年月日 令和元年11月26日(火曜日)
3. 開催場所 駒ヶ根市役所 保健センター2階 大会議室
4. 開会時刻 午後2時
5. 閉会時刻 午後3時35分

6. 議題

○審議案件

- (1) 駒ヶ根市一般会計補正予算について
- (2) 駒ヶ根市公民館条例の一部を改正する条例について
- (3) 駒ヶ根市地域交流センター条例について
- (4) 駒ヶ根市児童発達支援施設条例の一部を改正する条例について
- (5) 駒ヶ根市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について

○協議事項

- (1) 第2次駒ヶ根市教育振興基本計画(素案)について
- (2) 第2期駒ヶ根市子ども・子育て支援事業計画(素案)について

○報告事項

- (1) 駒ヶ根市公立学校教職員組合からの要望書について
- (2) 行事共催等承認申請の専決処分について

○その他

7. 出席者

教育長	本多俊夫
教育長職務代理人	福澤惣一
委員	唐澤浩
委員	氣賀澤知保
委員	木下健一

○委員以外で会議に出席した者

北澤教育次長、北原子ども課長、入谷社会教育課長、小原学校教育係長
山田子育て家庭教育係長、山本教育総務係長、吉澤教育総務係

○傍聴者：0人(うち報道機関 0人)

8. 会議のてん末

1) 開会宣言 本多教育長（午後2時）

2) 教育長報告

○本多教育長 改めまして、こんにちは。（一同「こんにちは」）

やや早いですが、皆さんお集まりですので始めたいと思います。

ただいまから令和元年駒ヶ根市教育委員会第13回定例会を始めます。よろしくお願いいたします。
教育長報告ということですが、1ページをお開きください。

明け方になったりすると、ちょっとまちなかを糖尿病の関係で散歩したりしていると、ドウダ
ンツツジの赤がものすごく目にまぶしい、そんな季節であります。今朝あたりも結構寒さが厳し
かったですけども、霜月とはよく言ったもので、少しずつ少しずつ寒さが厳しくなっているな
あと、そんな近ごろであります。

「いざ子ども はしりありかん 玉霰」と、もうこんな子どもたちは余り見ないのかもしれま
せんけれども、子どもが太陽の下で寒くても伸び伸びと遊ばせたいなあと思いますが、そんなこ
とを思っているのは私だけでしょうか。寒くなったら子どもの声が聞こえない、寒くならなくて
もそうですけれども、そういうのはなかなか寂しいものだなあという思いであります。

県教委からの話、また県教委の説明等をそこに書いてありますので、また後でお目通しいただ
ければと思います。

次のページでございますが、私の感想のようなものを3つほどお話ししたいと思います。

来年からまた新教育課程となるわけですけども、生きる力とか、私どもが駒ヶ根市で言っ
ている内から育つとかという、そういうことを言うんですが、お題目で終わってはいけないなとい
う気がします。私、いろんな偉い先生や同僚たちに生きる力の具体はどういうことですかと聞い
たときに、生きる力とはこういうものだとか具体的に語られた先生はほとんどおりません。でも、そ
れではまずいんじゃないかなというふうに思います。少しずつ具体を出していくべきではないか
など。もちろん、私の毎日のしゃべっている内から育つもそうだと思います。

そんなことで、そこに「最近の出来事から」と書きましたけれども、社会教育の係長さんと2
人で11月13日に日体大の研究発表を見る機会を得ました。テレビでよく、行進しながらクロ
スして、またバックしてというようなのをやりますが、あれはほんの一部ですけども、それ自
体を書きたかったわけではなくて、真ん中ほどに書いてあります。観戦中に、皆様方の御迷惑に
なるので立たないでしっかりと観戦してほしいと思いますと言ったときに、我々の3列ほど前に
斜めになっているんですが通路がありまして、子どもを連れてお母さんが、前に子ども、それ
でお母さん、それで後ろに女の子がいたんですが、前の2人は堂々と行くからちょっとこうやら
ないと見えないような感じなのに、後ろの女の子がこうやって「ごめんなさい。」という感じで、視
線は見えないのに自分の身を前にかがめて歩いていったというのがものすごく印象深くて、情け
ない母親だなあと思うのと同時に、未来は明るいなあという、両方の思いが交錯いたしました。
よく人の前を通るときにこういうことがあります。私の例なんですけど、例えばこの前を通るとき
には、ちょっとこんなことをやる人がいますね、手刀を切るというんですが。それは何も見えま
せん。視線を感じるだけで何か邪魔になるものがあるわけではないんですけども、ちょっとごめ
んなさいと、これは女の子と全く同じだと思うんですが、そういう姿が小学生の子どもの姿の中

に発見できたということがとてもうれしかったなあというふうに思います。これを生きる力と言わず何と言うんでしょうかと私は思います。

「その二」でございますが、駒ヶ根警察署の署長さん、たしか亘さんだったと思います。ことし変わった署長さんで、佐久の出身で、自分は養子で、千曲に今いると、長野方面がほとんどなんで、こちらへは初めてですと、お世話になりますという御挨拶をされたそのときに「何しろ私はびっくりしまして。」と言うので「何ですか。」と言ったら「横断歩道を渡るとき、渡り終えた後に子どもが会釈をしてくれたんですよ。」と、「小学生ならまだしも、中学生がきちんとできるので、ますますびっくりいたしました。」と、「長野では、そんなことはありません。」と、はっきり言われました。「すばらしいことです。」と。ここにおられる全員の皆様方は、いや、それは毎日見ていることだし当たり前と、もしかしたら思っておられるかもしれませんが、意外と中にいるとわからないんですけれども、私も何度も聞きました。これは、上伊那と言ったらいいのか、駒ヶ根なのか、何かこういう事実が出てくるのであれですけど、駒ヶ根の子どもたちの特長、長所、「特」の「長」、また特色でもあり、宝でもあるんじゃないかなと思います。こんなことはできて当たり前さあと言いながら、大人が結構できておりませんので、やっぱり、しかも中学生ができているとはとてもうれしいことで、それをたった一人ででもやっています。たった一人で、周りに誰もいないのに、横断するときちゃんと挨拶をしている。これを内から育つとか生きる力と言わずに何と言うんでしょうということでもあります。

最後でございます。10月30日、ちょっと古いんですが、夕方に、ちょうど南庁舎の前あたりのところで、南庁舎のそちら側からお母さんと男の子が出てきまして、私、ちょうど本庁舎のほうから会議を終えて帰ってきたときに、前にも教育委員さんにはお話したかもしれませんが、母子の会話が耳に入ってきました。「あ、オレンジ色だ。」と、その息子が東の空、こちらから日が当たって雲に反射してオレンジ色に東側になっていました。そしたら、「本当だ。オレンジ色しているね。」と。たったこれだけですけれども、こんな反応を自然にしてもらえる親子の会話がすばらしいし、こういう若いお母さんの反応がありがたいなあと、スマホ全盛で、親子の会話もない中に、こういうすばらしい姿が今失われつつあるんだけれども、すばらしいことだなというふうに思います。

ちょっとよっこなことですけれども、今私が言った中に「オレンジ色だ。」「本当だ。オレンジ色しているね。」と、「ね。」という後方に相づち、オウム返しの相づちをするのが相手の心を引き出す大もとだそうです。「もう頭に来ちゃって。」と言ったら「頭に来ちゃったんだね。」と、「もういらついでどうしようもない。」「いらついでちゃったんだね。」と、こういうふうに最後に「ね。」と言いながら共感をすると、ものすごく心を柔らかくしてしゃべると、そんなようなこともあります。無意識のうちに、この親子からもそんなことを感じました。不登校やひきこもりの鍵は親の姿だ、姿勢だということを言われています。今こそ親に警鐘を鳴らして、幼少時から親のあり方を見詰め直す機会にしてもらったらありがたいなあ、そんなふうに思います。

長くなりました。お世話になります。よろしく申し上げます。

3) 事業報告及び事業計画

○北澤教育次長から、事業報告及び事業計画資料について説明がされた。

〈質疑・意見等なし〉

4) 審議案件

(1) 駒ヶ根市一般会計補正予算について

○北原子ども課長から説明がされた。

〈説明の要旨〉

それでは、12月議会に提案を予定しております補正予算につきまして内容を説明申し上げます。

まず子ども課の関係でございますが、資料の5ページのところでございます。いずれも歳出予算の補正でございますけれども、まず小学校の学習指導書ということで、令和2年度に行われます学習指導要領の改訂に伴いまして必要となる小学校の教師用の指導書、また教師用の教科書の購入のための予算を計上するものでございます。補正額は993万7,000円でございます。

その下でございますが、全国中学校体育大会等出場団体補助金ということで、全国の中学校体育大会新体操選手権大会に赤穂中学が出演しております。8月23～25日、奈良県で行われた大会でございます。それから、北信越の中学校駅伝競走大会に、赤穂中、東中、両方の学校から生徒が参加をしております。11月23日に松本市で開催されたものでございますが、こちらのほうの補助を行うということで54万円の追加補正をしていくという内容でございます。

○入谷社会教育課長から説明がされた。

〈説明の要旨〉

おめぐりいただきまして資料6ページを御覧いただきたいと思っております。

6ページでは、地域交流センター等整備事業等の工事費変更ということで、御覧のとおり記載させていただいております。現在、地域交流センター等ということで駒ヶ根市の文化センターの北側に建設しております施設の関係ですが、全国的な建設資材の不足がありまして、もともと予定しておりました来年3月の完成時期が少し伸びる形となっております。この工期の延長等に伴いまして事業費等も多少増加になってきたという部分もございまして、この部分につきましての変更を上げるものでございます。

表が下にあるんですが、真ん中のところに「地域交流センター（赤穂公民館）等整備事業」という枠がありますので、御覧いただきたいと思っております。

上段に補正前ということで、合計額26億5,800万円ということで計上されております予算額でございますが、補正後を見ていただきますと16億9,314万6,000円ということで3,514万6,000円の増加という形になります。

また、補正前は令和元年度までの期間でございましたが、前段の説明させていただきましたとおり工期の延長が伴いますので、令和2年度までの計画時期の期間の延長をさせていただきます。

なお、この事業費に関しましては、上段にあります駒ヶ根駅前広場整備事業の中で予算計上されておりました国庫補助金額等と全体の中で調整をさせていただく中で、より有利な財源となる

ように調整をしていくという形になっているものでございます。

それから、その下にあります繰越明許費でございます。

2つありますが、下の段に地域交流センター（赤穂公民館）等附帯設備整備事業ということで1,130万円の金額がございます。このものにつきましては、現時点で前年から繰り越してきた事業費でございますが、このものの完成時期がもう一年後にずれるということで、この部分を繰り越しするという内容のものでございます。

以上でございます。

〈質疑・意見等なし〉

○本多教育長が諮り承認。

（2）駒ヶ根市公民館条例の一部を改正する条例について

○入谷社会教育課長から説明がされた。

〈説明の要旨〉

それでは資料の7ページから御覧をいただきたいと思えます。

7ページ、議案第2号 駒ヶ根市公民館条例の一部を改正するとなっております。

今回、先ほど申しました地域交流センター等という建物の中に赤穂公民館を新たに新築するという形になっております。これに伴いまして、現在あります赤穂公民館の位置と、それから使用料金等について改正を求めるものでございます。

まず、上段の方にあります第2条第1項というところに位置の規定があるんですが、これを「上穂南2番11号」という現在のところから「上穂栄町23番3号」という新たな住所へ変更するものでございます。

それから、その下にあります「別表第1を次のように改める。」という形で、別表第1というのが各部屋の使用料になるものでございます。

まず「1 講堂」という形になっております。ホールに当たる部分でございます。こちらの料金につきましては、文化センター大ホール等と調整しました区分に応じまして料金の方を設定させていただいております。

料金の設定に関しましては、近隣の類似施設や現在あります文化センターホールの料金等を参考に設定をさせていただいたという形になっております。

区分につきましては、午前、午後、夜間の3つの区分と、午前、午後を合わせて使います昼間、午後、夜間を合わせて使う昼夜、午前から夜間まで一日を通して使う全日という区分に応じまして、平日、又は土曜、日曜及び休日という2つの区分に応じてそれぞれ設定をさせていただいております。

備考欄のところでは平日、休日の規定が1項2項の方でございます。

3項では、営利を目的とする場合につきましては、この料金を3倍で適用しますという規定があります。

4項では、営利を目的とするものであり入場料を徴収しない場合については1.6倍にしますということです。

また、5項につきましては、練習、準備のために使用する場合につきましては100分の60、

60%に減額するという内容が書かれているところがございます。

7ページ下から「2 プレイルーム等」とございます。こちらは、各部屋の使用料のところになります。今までの公民館の区分に応じまして、正午まで、と正午から5時まで、5時から10時までの3つの区分に応じて料金を規定させていただいております。料金の算定に当たりましては、先進地等を参考にさせていただきまして、ランニングコスト等から1時間1㎡当たりの単価を算出いたしまして、それより算定された額をもとに設定をさせていただいております。したがって、広い部屋は高く、狭い部屋は安くという形になっております。

また、こちらでも8ページ中段にあります備考欄のところにあります営利を目的とする場合に付きましては3倍の額での使用料という形がとられております。

また、附属設備を使用する場合、冷暖房を使用する場合、器具等の持ち込みによりまして電力を使用する場合につきましては、条例でなく、別の規則のほうで定めるということが書かれております。

9ページに新旧対照表がございます。

改正後のものが新たに建ちます地域交流センター内に在ります新公民館、改正前のものは現在の公民館の規定という形になっておりますので、比較して御覧いただければというふうに思います。

(3) 駒ヶ根市地域交流センター条例について

○入谷社会教育課長から説明がされた。

〈説明の要旨〉

おめぐりいただきまして13ページを御覧いただきたいと思います。

13ページは、議案第3号 駒ヶ根市地域交流センター条例についてでございます。

この条例は、地域交流センターの設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとして新設される条例でございます。

地域交流センターの設置につきましては、第2条で住民の相互交流並びに教育及び文化芸術の向上を図るため、駒ヶ根市地域交流センターを設置するということで設置をさせていただいております。

また、第3条では、指定管理の業務の範囲として、地域交流センターの文化芸術に関わる業務について指定管理者に行わせるものという規定がされているところがございます。

第4条には利用の許可、第5条には利用の制限、第6条は利用料金等、おめぐりいただきまして14ページの方で第7条、料金の還付、第8条、損害賠償の義務ということで、これは一般的な施設条例のものと大きく変わらない規定がされているところがございます。

また、第9条で、この条例に定めるもののほか、条例の施行に関し必要な事項は教育委員会が定めるということで、委任がされております。

附則の第1項でございます。この条例は規則で定める日から施行するとされております。

附則の第2項以降、関連条例の改正を併せて行うこととなっております。

まず第2項では、駒ヶ根総合文化センター条例の一部改正となっております。駒ヶ根総合文化センター条例の中の第3条のところに施設の構成というものがあるんですが、その構成の中に今

前段で地域交流センターというものを新たに加えるという改正をさせていただきます。これによりまして地域交流センターが総合文化センターの一部という形になり、相互での利用がよりスムーズにいくという形での条例を整備させていただいております。

それから、第3項でございます。駒ヶ根市文化会館条例の一部改正という形になります。駒ヶ根市文化会館条例は、現在、文化センターの中に在ります部屋の利用料金等を制定されているわけなんです、今回、地域交流センターの新設に伴いまして、今後連携していくことになるこちらの施設の各部屋の料金を地域交流センターで新たに設置しました料金との統一性を図るために全体通して修正を行うものでございます。

以降、第3項、第4項、第5項まで同じ内容で改正を行う形となっております。

まず、第3項の駒ヶ根文化会館条例の中では、別表の中で小会議室、工作室、視聴覚室という3つの部屋があったわけなんです、まず、小会議室という部屋は、現在図書館の加島文庫として利用しているということで、貸し出しの部屋になっておらないところで、このものにつきましては今回削除をさせていただきます。

また、一番下にあります視聴覚室という部屋につきましては、その機能が今現在失われているということでありますので、名称を大会議室に変更させていただきます。

また、料金につきましては、前段で説明しました地域交流センターの算定方法に基づきまして料金の方を見直しさせていただいているということで、若干、今の規定されている料金よりも減ってくるという形になっております。

第4項では、駒ヶ根市勤労青少年ホーム条例の一部改正という形になっております。

15ページの上のところに改正前、改正後がございます。こちらの部屋に関しましては、部屋の名称は特に変更ございませんが、料金の部分、各部屋の面積に応じ、また地域交流センターと同様の算定に応じて改めて計算し直した額に置き換えるという作業をさせていただいております。全体として若干減る形になる部分がある中で、一部今までの金額よりも増える部分もございますが、これで全体の統制を図っていかうとしているものでございます。

15ページ中段以降、第5項になります駒ヶ根女性ふれあい館条例の一部改正におきましても、現在お話ししたものと同様の形でございます。現在規定されているものを部屋ごとの面積に応じ新たに算定し直した額に改正するという形で改正しております。

最後に、16ページ中段「別表（6条関係）」以降につきましては、今度新たに建ちます地域交流センターの新しい部屋の料金の部分が載っております。この部分につきましては、先ほど前段で説明しました赤穂公民館での料金設定と同様の内容という形になっておりますので、併せて御覧ください。

以上の部分につきまして18ページから21ページまでが新旧対照表という形になっておりますので、併せて御覧いただければと思います。

議案第2号、第3号は以上になります。

よろしく申し上げます。

〈質疑・意見等の概要〉

○唐澤委員 文化センター、地域交流センターの使用料金が値下がりになるというのは今どき珍

しいことなんですけれども、それでやっていければいいことなんで、ぜひ皆さんに使っていただくようにしていったらいいと思いますけれども。

○入谷社会教育課長 今度建てます地域交流センターと文化センターの勤労青少年ホーム、女性ふれあい館等で使用していた部屋というものを一応一体的に使っていこうという考え方があります。そうしたときに、料金の算定方法というのが統一されていないと、こっちは高い、こっちは安いというような部屋の料金に差が出てしまうことはあまりよろしくないだろうという協議の中で、算定の仕方を少し見直そうということにさせていただいたところでございます。以前、文化センターが建ったときの料金算定も、それよりも以前にありました赤穂公民館の料金算定の方法を基準に算定したもので設定されていたという過去もございまして、今回新たにまた地域交流センター（赤穂公民館）の料金を算定し直すのに当たりまして、同様の方法で関連する施設の部分につきましても料金のほうの見直しを行わせていただきました。結果として、落とすことが目的ではなかったんですが、結果として安くなったというところでございます。

ただ、文化会館等の利用者の中には、施設自体も古くなっているのに料金が下がらないから使いづらいといったような御意見も今まであったわけで、結果的に、皆さん、市民の方により御利用いただけるような料金設定になればいいかなあというふうにも考えているところでございます。

○本多教育長が諮り承認。

（４）駒ヶ根市児童発達支援施設条例の一部を改正する条例について

○北原子ども課長から説明がされた。

〈説明の要旨〉

資料の２２ページになります。駒ヶ根市児童発達支援施設条例の一部を改正する条例でございますけれども、その次のページ、２３ページに新旧対照表がついておりますので、そちらのほうで説明をさせていただきたいと思っております。

児童発達支援施設のつくし園でございますが、現在、下平幼稚園併設の場所で仮園舎ということで運営しております。こちらのほうの新築移転に伴いまして上穂栄町２番３号の方に位置を変更していくという内容でございます。

内容については以上となります。

（５）駒ヶ根市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について

○本多教育長 すみません。続けて５号の駒ヶ根市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、お願いします。

○北原子ども課長 資料の２４ページになりますが、駒ヶ根市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例ということで、こちらのほうも２５ページの新旧対照表の方を御覧になっていただきたいと思っております。

内閣府令の題名の変更に伴いまして引用しておる条文中の一部を整理するものでございます。特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準として内閣府の方で題名がございましたが、こちらのほうの題名が特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業並びに特定子ど

も・子育て支援施設等の運営に関する基準と改められたことに伴いまして、引用する条文中の字句を変更させていただきます。

〈質疑・意見等なし〉

○本多教育長が諮り承認。

5) 協議事項

(1) 第2次駒ヶ根市教育振興基本計画（素案）について

○北原子ども課長から説明がされた。

〈説明の要旨〉

別の資料になります。

第2次駒ヶ根市教育振興基本計画（素案）についてということで、資料のほうも概要とさせていただきます。概要版の方で説明をさせていただきたいと思います。

説明のほうを進めさせていただきます。

第2次駒ヶ根市教育振興基本計画（素案）については、第1次計画を振り返り、その現状や課題、今後の教育に向けた方向性などについて考えてまいりました。

まず、「第1章 計画の策定にあたって」でございますけれども、第2次の計画は令和2年度からの5年間を計画期間といたしまして、駒ヶ根市第4次総合計画を踏まえ、本市の教育関連計画におきます最上位の計画に位置づけられるものであります。

第2章に記載いたしました「教育を取り巻く社会の動向と課題」、それから第1次計画の課題等も踏まえる中で検討を進めてきたところでございます。

「第2章 教育を取り巻く社会の動向と課題」の中で、新しい学習指導要領につきましては、情報化や技術革新、グローバル化等によりまして予測を超えて加速度的に進展することが予想される中、学校教育では子どもたちに変化の激しい社会を生きるために必要な力である生きる力を育成していくことが重要と考えております。

それから、学校における働き方改革では、学校に求められる役割が拡大するに伴いまして教職員の負担は過大なものになっており、教職員の心身の健康は日々の子どもたちの教育にも関わる大きな問題と捉えております。

また、いじめ、不登校については、未然防止、早期発見、早期対応に取り組んでいく必要があります。また、子どもの自殺対策も含め、引き続きの重要課題と捉えておるところでございます。

その下の「第3章 基本理念」でございますけれども、第1次計画を引き継ぎまして「夢と希望にあふれる子どもたち」の育成、「文化的・健康的な駒ヶ根市民」の形成」としております。

特に、「夢と希望にあふれる子どもたち」の育成」では、変化の激しい社会を生きるために必要な力である自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り開いていく生きる力を育成し、内から育つ子どもたちを育てていきたいと考えておるところでございます。

おめぐりいただきまして2ページでございますけれども、こちらに第1次計画の振り返りということでお示しをさせていただいておりますが、第1次計画の各施策の主な現状と課題について、第2次計画で対応する施策として青の三角以降に表示をしております。こちらについては、3ペー

ジ以降の「第5章 教育施策の展開」で取組に位置づけておりますので、そちらで主な部分を説明させていただきたいと思っております。

3ページの「第5章 教育施策の展開」であります。赤色の下線を引いた部分が新たに第2次計画に位置づけた部分でございます。

まず、基本目標1の安心して産み育てることができる環境づくりでは、産後鬱の早期発見・早期支援を計画に位置づけ、産後鬱の予防や新生児への虐待予防等を図るため、産婦健康診査の実施など、医療機関とも連携した支援の強化を図っていきたくと考えております。

また、発達特性に応じた子どもらの支援のため、他機関とも連携をいたしまして専門機能の強化を図っていきたくと考えております。

次に、基本目標2の幼児教育関係でございますが、3世代が交流できる取組を推進していきたくと考えております。この取組については、この後の学校教育、家庭や地域ぐるみの子育て、生涯学習関係の取組の中などでも計画に位置づけを行いまして、園や学校、地域、家庭が連携をいたしまして、3世代が交流でき、相互に協力しながら一体となって子どもたちの成長を支えるような取組を推進していきたくと考えておるところでございます。

また、未満児保育事業の増加による保育士不足といった場合には、保育士人材バンクの活用など、県との連携も含めまして対応をしていきたくと考えております。

次に、基本目標3の学校教育の関係でございますが、ICT教育のための環境整備、プログラミング教育への対応と併せまして情報社会で適正な活動を行うためのもとになる情報モラル教育を大切にしていきたいと考えています。

また、学校における働き方改革の推進を計画に位置づけまして、閉庁日の設定、公務支援システムの導入、留守番電話の導入検討なども進めていきたくと考えております。

次に4ページになります。

基本目標の4でございますけれども、子育てに喜びを感じる家庭づくりでは、子ども・若者の自殺対策の強化について計画に位置づけ、相談・支援の充実のほか、啓発リーフレットの活用やSOSの出し方に関する教育などを強化して取り組んでいきたくと考えております。

また、制定から10年以上が経過する子育て10か条についても見直しを進めていきたくと考えております。

基本目標5の生涯学習関連でございますが、こちらについても3世代が交流できるような取組を通じまして十二天の森の利用促進を図っていきたくと考えています。

また、図書館等を中心とした読書活動の推進として、乳幼児期から発達段階に応じ子供が読書に親しむ活動を推進し、読書習慣を形成していく取組についても計画に位置づけ推進をしていきたくと考えております。

次に、少し飛びますけれども、5ページになりますが、8の教育関係施設の関係でございますが、こちらでは、小中学校、給食センター、保育園・幼稚園、社会教育施設など、少子化等を踏まえた施設のあり方につきまして計画に位置づけ検討を進めていきたくと考えています。

今後の予定でございますが、1月にパブリックコメントの実施、3月議会でパブリックコメントの議会への報告ということで策定を進めていきたくというように考えております。

説明は以上です。

〈質疑・意見等の概要〉

○唐澤委員 校務支援システムとは？

○小原学校教育係長 3ページの3番の学力向上のところでございます。②番の働き方改革の中の校務支援システムというものでございますが、これ、今、昨年度あたりから長野県教委の方で検討を始めておまして、いわゆる先生たちがパソコン上で成績管理ができたりだとか、出欠の管理ができたりだとか、このパソコン上のシステムがあれば一元的にいろんなことが、今まであちこちになっていたのが一元的にできるというシステムでございます。ちょっとお手元に資料がなくてイメージがわからないかもしれませんが、基本的には、これは長野県とすると全県的に統一していきたいという考え方もある中で、先生たちが一度それを覚えてしまえば、例えばほかの学校に移っていったときにも同じシステムで仕事ができるということで、大分先生たちの負担軽減にはつながるという予定でございます。

それで、駒ヶ根市としては、来年度以降でこのシステムを入れて、先生たちにもお使いをいただいて、実は今、これを提供する会社が研修をしまして、今、先生たちに行っていた中で、その有用性をお諮りしておるところでございます。先生たちの声からしますと、大分使えるシステムではないかという声をお聞きしております。

ですんで、いずれにしても1つの画面で作業ができるという有用性が高い先生たちのツールだということでございます。

以上です。

○本多教育長 おおよそおわかりいただけましたか。

○福澤教育長職務代理人 校務というのは、出席管理だとか、何だっけ……

○小原学校教育係長 成績表ですね。

○福澤教育長職務代理人 成績表。成績表を管理するんですか。

○小原学校教育係長 ええ。通知表はそれでできるということです。今が別のシステムを先生たちが組んでパソコンでできるんですが、例えば通知表をつくるのはこのシステム、出席の管理するシステムなんていう場合は別々なものでやられているんですが、それをもう1つのものできましますということです。それが、例えば小学校から中学校へ行くときに、そのデータをぽいっとやると、それがもう駒ヶ根市内であれば、入れれば市内ではもうできると。

県からすると、それをどこの市町村でも同じものを入れてもらって、あっちの学校、こっちの学校でも情報をやり取りができて、先生方はどこへ行っても同じシステムで仕事ができるということを考えているようです。

○福澤教育長職務代理人 それは、今言ったように県の言っているキャリアパスポートというのですか。それとは別ですか。

○小原学校教育係長 それとはまた違います。

○福澤教育長職務代理人 それはまた別ですか。

○小原学校教育係長 それとはまた別で、それはお子さん側の、やっぱり自分の目標だとか経歴だとか、そういったものを引き継ぐということなので、子どもの……

○福澤教育長職務代理人 成績とは別なんですね。

○小原学校教育係長 そうですね。この新システムの中には入っていないです。

○福澤教育長職務代理者 今でもそういうソフトはあるんだけど、それを統一する、新しいソフトに変えていくということなんですかね、全体を。

○小原学校教育係長 そうですね。統合型校務支援システムという言い方をするんですよ。なので、いろんなものがもうこれで網羅できているという、そういうことですね。

○本多教育長 よろしいですか。

今の支援システムですが、長野市は独自でやっておる。県は、附属、大町、あとは北信とか東信のほうで拠点も決めて、会社にもよって2種類ばかりあるんだけど、県で統一できれば本当はいいんだけど、県はそうしたいんだけど、なかなか、そこは時間がかかるかもしれないけれども、それぞれの市町村、県で、転勤したらそのたびころころ変わっているより、できればそんなことができればいいなあとということです。

○北澤教育次長 成績をつけたりするのが一番やっぱりウエイトがうんとあるということは聞いています、一番大きな。

○本多教育長 少人数のところは手書きやなんかで昔ながらのものもあるかもしれないけれども、もう人数が多いところは全部パソコンです。

よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○本多教育長 ありがとうございます。

(2) 第2期駒ヶ根市子ども・子育て支援事業計画(素案)について

○北原子ども課長から説明がされた。

〈説明の要旨〉

それでは、第2期駒ヶ根市子ども・子育て支援事業計画(素案)につきまして、こちら概要の資料によりまして御説明をさせていただきたいと思っております。

それでは、まず「1 計画策定の趣旨」から「3 計画の期間」でありますけれども、本計画については、子ども・子育て支援法に基づく子ども・子育て支援事業計画、それから次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画、子どもの貧困対策の推進に関する法律に基づく市町村計画として、駒ヶ根市第4次総合計画を踏まえまして、一人一人の子どもたちが健やかに成長することができる社会の実現を目指して策定するものでございます。計画期間は令和2年度から6年度までの5年間の計画となります。

「4 策定の経過」でありますけれども、民生委員、育成委員、PTA、保護者会、子育てサークルなどの皆さんによりまして子ども・子育て会議による昨年度からの検討を進める中でまとめてきたものでございます。

「5 子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査及び今後の方向性」でございますが、平成30年度に第2期計画の策定に向けて就学前児童保護者、小学生児童保護者、全世帯を対象といたしまして、子育て支援事業に関する利用状況、要望、意見などを把握することを目的としてニーズ調査を行っております。

その中で、(3)にございますが、調査結果と今後の方向性といたしまして次のように考えております。

まず①でございますが、子どもの病気や発育、発達に関する悩みを持つ保護者も多いことから、妊娠・出産期からの切れ目ない支援、子どもに対する保護者の悩みを相談できる相談体制の充実や関係機関での情報共有、連携の強化が求められております。

次に、2ページとなりますけれども、②といたしまして、必要また重要な支援として子どもの就学にかかる費用の軽減を挙げる保護者の割合が最も高くなっております。経済的な状況によりまして子どもの育ちに影響を及ぼす子どもの貧困が問題となっておりますが、当市においてもひとり親家庭が増加傾向にあるなど、特に支援を要する家庭への対応は、教育・生活・経済面など、家庭全体の生活困窮も捉えて包括的に支援をする必要があると考えております。

③では、子どもたちが多様な体験のできる機会の提供や、子ども交流センターや地域における子どもの居場所づくりの充実が求められております。

④では、社会的に問題となっている児童虐待やいじめなどに対する施策の充実が求められており、早期発見や未然防止、相談体制の充実が求められておるところでございます。

こうしたニーズ調査等の結果等も踏まえる中で、「6 施策の推進」として。第2期計画は基本理念を「育つよろこび 育てるしあわせ 内から育つ子ども親も」といたしまして、これまでの計画の充実、強化を図るとともに、新たに、次ページになりますが、基本目標の3の部分「安心して産み育てることができるまちづくり」の部分でございますが、こちらに子ども・若者の自殺対策、子どもの貧困対策の推進、定住外国人の子どもに対する支援を計画に位置づけまして、子育て支援施策の推進を図っていききたいと考えておるところでございます。

この下に抜き書きをいたしました子ども・若者の自殺対策の部分でございますが、第1に、子どもの命、それから心身を保護することを目的といたしまして、関係者が一丸となった総合的な支援を行いたいと思っております。

子どもの貧困対策の推進では、子どもの将来が生まれた環境によって左右されることがないように、その家庭全体の生活困窮と捉えて包括的な支援を図っていきます。

定住外国人の子どもに対する支援では、外国人の子どもの世帯を対象とした子育て支援情報の提供など、平等に支援を受けられる環境整備に努めます。

「7 量の見込みと確保策」でございますが、こちらは子ども・子育て支援事業計画で定めることとされております子育て支援事業に係る需要とその確保の見込みを定めるものでございます。

表1は保育園・幼稚園の入所児童数の推移となります。出生数も減少しておりますので、全体としては年々減少していくという傾向にございます。

おめくりをいただきまして4ページでございますが、こちらの表2については、その中で3歳未満児の入所実績をお示ししてございます。こちらは年々増加をしているという状況でございます。

その下の(1)は幼稚園、(2)は保育園の量の見込みと確保の内容でございますけれども、少子化の状況、また、ニーズ調査から、量の見込みに対し、その確保はできるものと見込んでおるところでございます。

5ページの(3)以降でございますが、こちらは地域子育て支援事業の抜粋となります。いづれも、これまでの利用実績、それからニーズ調査、少子化の状況などから、量の見込みに対し、その確保はできるものと見込んでおるところでございます。

6 ページの最後のところになりますけれども、今後の予定ということで、1月にパブリックコメント、2月に子ども・子育て会議、3月議会でパブリックコメントの結果報告という流れの中で策定を進めていきたいと考えておるところでございます。

説明は以上です。

〈質疑・意見等の概要〉

○福澤教育長職務代理者 最初にやったほうとの位置づけというのは明確なんだと思うんですが、何か混ざっている部分があるんですけど、これはどういう位置づけなんですか。

○北原子ども課長 まず、一番上が市の第4次総合計画でございまして、その教育部分の最高位として位置づけているものが教育振興基本計画でございまして。その下という表現が適切かどうかわかりませんが、個別計画として子ども・子育て支援事業計画というものがあるわけです。

○福澤教育長職務代理者 この図に書いてあるのがそうなんです。

○北原子ども課長 そうですね。この表の中にあるとおりで、ほかにもさまざまな計画があります。

○福澤教育長職務代理者 家庭自体が生活困窮を抱えて、貧困の家庭の包括的な支援というのは、どういうものが当たるんですか。生活困窮家庭、包括的な支援。

○山田子育て家庭教育係長 子どもの貧困対策というものは、実際に子どもだけが貧困しているというわけではなくて、家庭全体が貧困しているというふうに捉えていまして、具体的な施策としましては、本編になってしまうんですけども、51ページからになりますけれども、貧困対策事業一覧ということで、子どもの学習支援のものですとか、それから生活支援、それから保護者の就労自立支援、それから子育て世帯の経済的支援ということで、各担当課でさまざまな支援のほうで設けられておりますので、こういったサービスを使って家庭全体をサポートしていくというような支援策という形でとっていかうかなと思っています。

○福澤教育長職務代理者 福祉課と子ども課というのは一体となってというふうになっているんだね。

○山田子育て家庭教育係長 ええ。情報共有のほうは常にしておりますので、こういった家があるよというような話は、その都度しております。

○本多教育長 子ども課と福祉課は緊密につながっておりますので、その点は職員も一生懸命やっております。よく活字には子どもの貧困というんだけど、そんな日本語ってあるのかと、子どもの貧困ってちょっとおかしいんじゃないかなということの原点に立ったときに、今、係長から説明のあったような捉え方のほうが大事ではないかなということなんです。

○木下委員 今、素案のほうをちょうど開いて見せていただいて目についたわけですけど、定住外国人の子どもたち、家庭への支援ということでありまして、ちょっと私も最近のニュースで危惧したのは、箕輪町でしたか、幼い子どもを巻き添えにした一家心中があったという話で、どうも聞いていって見たら外国籍の方であったと、何でそこまで追い込まれてしまったのかなあと、思って関心を持っておったんですけども、実際、駒ヶ根にも多くの方がいらっしゃると思うんですけど、なかなか今支援がなくて困っているような状況なんではないでしょうか。今、現状がどんな感じかおわかりでしょうか。

○山田子育て家庭教育係長 ちなみに、定住外国人の子どもに対する支援というのは、今回計画

の中に盛り込んである中に、国のほうでこういった項目を載せなさいよという中で、こういう施策をとらせていただきました。

現状で申し上げますと、実際には、駒ヶ根市の場合ですと、こういった定住外国人の方に関する課題ですとか、そういったものが顕著に出てきているわけではございませんけれども、例えば、私の系のほうで担当していたものに関して言えば、例えば学校に行かれているお子さんの放課後の遊び場ということで子ども交流センターというのがあるんですけれども、そういった使い方で、こちらのほうで保護者向けの申請ですとか説明会を開催するんですけれども、なかなか使い方がわからないとか、どういったふうに支払をするのかわからないというような外国人の方からの問合せもありましたので、そういったところを含めまして、情報共有というか、情報提供、そちらの部分を中心に力を入れてやっていくべきところかなあと考えているところでございます。

ですので、定住外国人に関しては、特に目立った課題等は、今のところは出てきてはいないという形になっております。

○小原学校教育係長 学校教育というか、そういった中では、今、5月1日の数字ですけど、大体、外国籍で義務教育の子が26人います。実は500人くらいの外国籍の方がいるんですが、子どもって少ないんですよ。

多分、国が言ってきたのは、入国管理法が4月に施行される中で、どんどんこれから出てくるだろうと、今のうちに手を打っていきなさいということでこういうことを載せていくという話だと思うんですよ。ですから、今後の対応というのは、やっぱり、そういった支援策というのはいろんな多様なものが出てくるかもしれませんが、今、駒ヶ根には、例えば言葉の支援が必要だと、これは中学生の子なんですけれども、そういった場合は加配の先生、加配の支援員というか、そういった方を学校に置いて、その方が生活というか子どもの支援をするというようなこともやっていますので、学校と協力しながら、外国籍の子どもたちについてはアプローチをしているところでございます。

○木下委員 ありがとうございます。

民間レベルでいくと地球人ネットワークさんですとか、ああいう組織があって、私も何となくわかっておるんですけど、殊、教育の場で子どもたちに対して、外国籍の方と私も余り接したことがない、全然私自身ノウハウがないので、これからよい策をもっと練っていただいて、我々にも情報発信していただいて、お手伝いできるところはさせていただきますので、よろしく応援していただければと思います。

ありがとうございます。

○本多教育長 今のことで、言葉の関係にもありましたけれども、学校ごとにやったり地域ごととかでもやっている、広域でも「いなっせ」の中で、ポルトガル語であるとか、今はポルトガル語が中心みたいですけど、中国語であったりだとか、そういう、あそこを拠点に、あそこに行けば困ったことが相談できるよというようなところがあるんですけれども、やっぱり人材がなかなかというところで、広域的にわっとどうぞというのがなかなかできづらいということは聞いておりますけれども。やっぱり、殊、駒ヶ根だけで考えていくんでなくて、もっと広域的に考えてもらわなきゃいけないことだと思います。

○唐澤委員 本件から離れるんですけれども、今のことで、この間、伊那市に仕事へ行ったとき

に、その近所の方がIターンで来られた方なんですけれども、日本人なんだけどアメリカに育てて子どもが日本語をできないということで、地域の学校に困ると言われて、そこへ入れないで、どこか寮のある学校に行ったりとかしたようで、そういうことは駒ヶ根でもあるんですか。今のお話だったら、日本語ができない子に支援してやってというふうにおっしゃったように、実際にそれはどうなんですかね。日本語ができない……

○小原学校教育係長 日本語ができない日本人ですよ。

○唐澤委員 日本人です。困ると言われて、その前に近所の人のお話だからわからないですけどね。

○小原学校教育係長 ちょっとすみません。今ぱっと浮かばないんですが、やっぱり支援をしていくということになっていくんじゃないかと思います。

○唐澤委員 受け入れるということですね。

○小原学校教育係長 ええ。基本的には、やっぱり義務教育を受ける権利は絶対にあるはずなんです。例えば、さっきは中国人といったけど、英語が必要な子がいれば英語の対応をしたりとかって駒ヶ根市はずっとしてきているので、それに基づいた対応を、学校と話をする中で必要であればしていくんではないかと思います。ちょっと事例が多分、ちょっと私が知り得る限りではないのでわからないんですが、受け入れると思います。

○唐澤委員 私も本人に直接じゃないのであれですけど、そういう話を聞くと、やっぱり受け入れてやってほしいなあとは思いますが。

○本多教育長 そういうのはありましたけど、これからはいっぱい出てくると思いますので。

私が赤中にお世話になったときに、中国の黒竜江省から来ていた方で、中国語がしゃべれるもんだから、福岡に訳してくれるおばあちゃんがいて、そういうのはいいんだけど、日本語をやっぱり学びたいと、ここで生活しているから日本語を学びたいと、私も日本語教師になったりして教えましたけど、やっぱりそう必要はこれからも出てくると思うし、日本人だから日本語ができるだろうじゃなくて、外国に行ったらもう使うことがば例えば英語であったりだとかポルトガル語とか、戻ってきたときに、本当にジェネレーションギャップを感じてしまうので、何だろうと、カルチャーショックも受けて、ひどいときにはここへ来てやれないみたいなことになってしまったりもするので、そんなような声があったら、やっぱりまずは吸い上げるということが大事だと思うんですけど、殊1か所だけで、先ほども繰り返しましたけど、考えるということではないかなあと思うので、またいろんなところで私も提案をしていかなきゃいけないのかと思います、市町村教委だとか。難しい問題だけれども、捨てるはおけないなと、大事な問題だなというふうに思いますので、地道ですけども、ここにありますように支援を進めていきたいなあというふうに思います。お願いします。

○福澤教育長職務代理者 これ、議会ではもむんだよね、中で。

○北原子ども課長 あさって議会全員協議会がありますので、その中で説明をしていきます。

○本多教育長 今、企業やなんかはどうなんですかね。外国の方を迎えたときに日本語がわからないという企業でやっていますよね、きっと。外国人労働者もおりますけども。

ちょっと私、個人的であれだけど、リーマンショック以前は、長野県の場合は佐久かなんかに拠点があって、そこが長野県全部の必要な外国の方を振り分けて、飯島のほうだったら飯島セラミックみたいなところは南米のほうから来た方が、もうそのショックでほとんどいなくなってし

まうというような、そんなような状況になったりして、何かそういう拠点のあるところはいいいんだけど、ただ人材をはいはいはいとやるだけじゃなくて、ほどほどに日本語、ベースをやるとか行くとか、そんなようなことはやってはいないんですね、やっぱり企業任せ、行ったところ任せということらしいんだよね。

○福澤教育長職務代理者 家庭や、そんなことなんかあまり心配しないよね。

○本多教育長 会社の中でこれを覚えてもらわなきゃいけないというときに、日本語は……

○福澤教育長職務代理者 わかる人をつけるんだよ。言葉のわかる人を。

○小原学校教育係長 何か、割と人材派遣会社がやっぱり送るといような部分で、人材派遣会社が日本語教室を開いたりとか研修をしたりというのは、駒ヶ根でも結構ありました。

○本多教育長 じゃあ、生活面でのトラブルもあったりしたときはそういうところへ駆け込んで……

○小原学校教育係長 会社で直に雇うというのは多分ないんじゃないかと思うんで……

○本多教育長 逆に会社がそういう人材派遣会社にいろんな要求をしたりしているわけですか。

○小原学校教育係長 していますね。こういう人をくれるから始まって。ええ。

○福澤教育長職務代理者 家族やそれについてきた子どもたちというのは、やっぱり行政のほうへ任せているんだね。

○ 困ったときは、そうですね。何とかしてと言って。

○福澤教育長職務代理者 一生懸命考えて、行政側では考えて、そういう教育の場面をつくっていくという、うんと恵まれておるかと思えます、来た外国人の子は。

○本多教育長 現場が一番いいのは、子どもに任せる、お願いしますというのが、これは一番手取り早いわけです。本当に早く覚えます、数か月で。

ほかはよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○本多教育長 ありがとうございます。

6) 報告事項

(1) 駒ヶ根市公立学校教職員組合からの要望書について

○小原学校教育係長から説明がされた。

〈説明の要旨〉

すみません。きょうは表紙がついていないんですけども、こういった要望書ということで駒ヶ根市立公立学校教職員組合、市内の小中学校7校の先生方で作る組合、そういったものから要望が要望書として出されたものが、こちらにつけてある6ページのものでございます。

それで、例年のことではございますが、大体11月にこれを頂戴して、要望書が出されまして、その後、回答を私どもがもむ中で、1月下旬に回答書をお渡しするというので、教育委員の皆様には、そのときには一緒に御同席いただくということになっていると思えますが、そんな流れで回答をしていくものでございます。

それで、ことしは、26ページにありますように、今年度の重点要望として学校における働き方改革推進のための基本方針についてというものがまず1つございまして、その後、大きな見出

して1番の学校施設・設備について、あとのページになりますが、2番の教職員の配置及び勤務条件について、安全教育についてなど、7つの大きな項目によって要望をいただいております。

それで、まず26ページの一番最初の働き方改革の問題でございしますが、これは、平成29年に働き方改革の指針が出る中で、昨年度あたりからこういったところを市町村教委で下さいということが結構言われております。あと、2行目にあります改正労働基準法がスタートして、働く時間の上限ガイドラインが示されたということが結構なところもありまして、その中で、先ほど申した校務支援システムだとか、あとタイムカード、そんなものを導入する中で長時間勤務を解消してほしいと、検討してほしいといったところがまとめられているものでございます。

次に、1番の学校施設・設備についてですが、これは、やはり御承知のとおり、もう学校施設は古いものが多く老朽化をしているということがある中で、破損、不備があるものですから、それがそれぞれの学校から具体的に要望が上がってきているというものであります。

あと、エアコンについては、本年度つけて稼働しているので、ありがたいということをお願いしております。

次のページ、27ページに行ってくださいますと、施設整備の2つ目で放送機器の更新、整備についてということですが、思う以上に学校の放送設備が老朽化しているということで、そういったものを徐々に改善してほしいということが、やはり各校言われております。

次に大きな見出しの2番の教職員の配置及び勤務条件についてということで、そこに書いてあるように、県費の教職員だけでは児童生徒の教育、学校生活を十分に支えていくことは難しいという中で、駒ヶ根市においても市独自の教職員、学校の事務、学校用務員、特別支援教育支援員、生徒相談員、専科教員、中間教室適応指導員、その他相談員などを配置しているんですが、そういったものを継続してほしいというような御意見が多いわけでございます。

27ページの一番下の(1)番の特別支援教育支援員、不登校生徒支援員の増員についてということですが、これは、やはり、今、特別支援を要する子どもだとか不登校の子が増えている中で、やはりこれは支援員の増員をしてほしいというような御要望でございます。

次のページに行ってくださいまして、(2)番は市費の講師、支援員の行事引率についてということで、これは、市費の先生であっても行事の引率が、実は特定の場合を除いて認めていないんですが、そういったものを認めてほしいという御意見です。

あと(3)番の養護教諭不在時代替・補助パートについてですが、これは、養護教諭には10日間の代替の人材を補助につける制度になっているんですが、その要件を緩和してほしいという御意見でございます。

(4)番の外国語活動へのALTの配置については、これは、引き続きALTの配置をお願いしたいということと、あと、外国語の専門性を高めるための支援員の増員をお願いしたいという御意見でございます。

その他、各校から御意見がございします。

それと、28ページの一番下の(5)番、会計年度任用職員という制度がございします。これは、今まで臨時・嘱託職員と言っている市の臨時職員ということで学校に入っていた、ちなみにこの市役所内でもそうなんですが、それが地方公務員法の改正によって会計年度任用職員という制度に変わります。そういった中で、それによって不利益がないようにしてほしいという御意見がご

ございました。

29ページの3番、大きな見出しの3番の安全教育・安全確保についてでございますが、これは、やはり災害時の被害軽減だとか緊急地震速報について、そういったことに危険がない、または情報が迅速に捉えられるように配慮してほしいという御意見でございます。

あと、通学路についても、まだまだ危険な箇所があるので、そういったものを、道路整備する中で、市独自で歩道と車道の境にポールを立てるとか、そんなようなことも考えてほしいという御意見でございます。

大きな見出しの4つ目の各種教育についてということですが、この中では、コミュニティ・スクールのコーディネーターを要請、育成をお願いしたいとか、あと、(2)番のICTの活用について、これについては、やはり無線LANの整備だとか、アプリの導入、タブレットが使えるような状況にしてほしいという内容でございます。これについては、ちょっとなかなか学校側がまだ無線LANの関係が整っていないので、そういったことを特に要望されるということでございます。

30ページに移っていただいて、真ん中ほどの5番の保護者の負担軽減についてということで、先ほど貧困対策というような話もございましたが、やはり、皆さん、お子さんが同様に、平等に学習ができるように、補助金だとか、あと就学支援のための補助金だとか、そういったものを引き続き維持してほしいという御意見でございます。

30ページの下の方の6番の研修についてということですが、タブレット、ICT等の研修の機会を増やしてほしいということなんですけど、これは、やっぱり今どんどん新しい機械を学校現場に入れ始めているんですけど、そういったことの中で、それが先生たちみんなが使えるようにしてほしいということで、研修をしてほしいということでございます。

30ページ一番下の7、その他についてですが、これは全国学力学習状況調査について、次ページに行ってください、そういったものが駒ヶ根市としての結果は公表しないようお願いしたいとか、あと(2)番の教職員住宅については、それについても、やはり改修、充実をしてほしいということでございます。

最後の(3)番の学校に配布する催し物等のプリント精選についてということは、学校現場にたくさんのいろんな配り物だとか、そういったものが来るので、そういったものを教育委員会のほうで渡す前に、いわゆる選んでくれと、真に必要なものだけ学校へ流してくれというようなことで御意見をいただいております。

すみません。ちょっと本当に簡単に今かいつまんで説明をしたわけでございますが、また後ほど御覧いただければ思いますが、基本的には、これらの要望について、なかなか全てに対して先生たちが満足いくようには回答できないかもしれないんですけど、やはり寄り添った、できるだけ寄り添った回答をしていきたいと思っておりますので、また次回に回答内容をごらんいただくことになっていると思っておりますので、またそのときに御意見を頂戴できればと思っておりますので、よろしく申し上げます。

〈質疑・意見等の概要〉

○福澤教育長職務代理者 これは毎年のことだもんで、とにかく、やっぱり要望が出たり、場所がこうだとか、ここがこうなっておるとかといったら、極力やっぱり現場へ顔を出して、ものを

見て、それで、できるものはできるし、できんものはできんということは、もうわかるもので、よく説明してもらって納得してもらおうということが大事だと思うんで、いずれにしろ財政がこういう状態だというのはみんな分かっていると思うんだけど、それでも、やっぱりやらなきゃならんもんは、やらなきゃならんと思うだよ。だもんで、そこらは上へ上げて予算を確保しなきゃいかんんだけど、先生たちにそこら辺もよくわかってもらうようにやってもらって、うまくできるようにしてもらいたいです。

○山本教育総務係長 今おっしゃっていただいたように、現場を見ると、やっぱり結構工夫していただいてやっていただいているんで、全てのものはやっぱり、寄り添ってと言いましたが、やっぱりやらなきゃいけないと思っているんで、そのスタンスで回答したいと思っています。

○福澤教育長職務代理者 そういうところを見てやるだけでもいいと思うんだよ。

だけど、このトイレが、赤穂南小学校のトイレ、和式かね。

○山本教育総務係長 トイレの中に1つは和式があって、あとは……

○福澤教育長職務代理者 洋式ですか。

○山本教育総務係長 洋式……ほとんど和式です。平成のあの時代はあの時代で、まだ洋式になっていなくて……

○福澤教育長職務代理者 ああ、そう。ほかの学校は大体いいんですか。

○山本教育総務係長 いや、今、全体で40%くらいです、洋式。去年、赤小の南校舎の3階を全部やって、今まで30%が40%くらいに上がったんです。60%くらい、それぞれ和式を1つで、あとを洋式にするというような予定で、全体で60%くらいを目標にしています。

○福澤教育長職務代理者 南小から上がってきたということは、まあ、しょうがないよね、予算のことがあるから。わかりました。

○本多教育長 先日、県の厚生大臣賞を受賞した幸助産院で、ちょっと興味ある話をしてくれまして、今の若い衆たちのお産がものすごい難儀だと、トイレも——それは助産院さんが私の持論ですけれども、トイレがもう洋式化されちゃったりしたもんだから踏ん張るっていうことがまずないんですよ、それが原因——全部じゃないですけど、それも原因の1つじゃないかと私は思っていますと、はっきり言っていました。それを聞いたときに、駒ヶ根市は非常に困っておるけど、そういう見方もあるのかと。だから、困ったときにはポータブルのやつを置いておいて使えるようには、まずは早急にさせていただいて、お金をかけて残りのトイレを全部やる方がいいのかどうかということ、一方で、相撲やなんかも股割りってというのが本当にいいんだよと、健康にもいいしとって見直されていますよね。だから南小は相撲が強いんです。本当に強いですよ。南小か東小かというくらい。それはちょっと余談ですけど、それもあつていう、そう言われてみれば、私ももう股関節が固くなったのは、ただ歳とっただけじゃないなという思いがします。だから、しっかり、もう一つですけど、この間も2人ほど校長に行き会って「いつもお世話になっております。」というので、「いや、いろいろ要望があつたりしたら、もう、何しろできなくても飛んでいくように、うちの教育委員会の人が待っているで。」と言ったら「いやいや、来て見るだけじゃなくて、本当に細かく聞いていってください。」と言われたんで、すぐに直らなくても、それはありがたいことだなというように思います。名前まで言われたけれども、職員の、ここでは控えますが、本当にありがたいと。そんなことで、ぎくばらんに、金がない中でも飛

んで歩いて、現場も工夫してくれているので、何とか沿いたいなあとは思って一生懸命なんです
が、気持ちはそんなところです。

○福澤教育長職務代理者 これから厳しくなってくると思うよ、そういうのが、恐らく。でも、
学校や子どもたちの、それは話をしてわかってもらって、そういうふうにしていくということだ
と思う。話をしなきゃわからんから。ちょっと大人には我慢してもらって、子どもたちにお金を
使うという考え方でいったほうがいいような気がします。

○唐澤委員 この施設とか設備というのは、このほかにも別に学校からも来ているわけですか。
あえて組合で言うことかなあというか、学校名で来たほうがいいかなあと思うんですけども、
ほかにそういう機会もあるんですよね。

○小原学校教育係長 予算の要求のときに、やっぱり予算がいっぱい出てきますよね。それは各
学校へ行って予算要求のときにお聞きして、ちょっとひどい箇所はその場で見させてもらったり
もします。そんなことをしています。ですんで、正直なところたくさんあります。もっとたくさ
んあります。

○唐澤委員 先生たちが心配してくれるのはわかるんですけども、校長名でちゃんと出てくる
というのが筋ですよ。

○小原学校教育係長 そうですね。そこら辺は、ちゃんと学校としては整理されていますので、
お願いします。

○木下委員 関連してですけども、やっぱり子どもたちの安全ですよ、安全に過ごせる環境
をまず第一に整えていただければ。さっきのトイレの話もありますけど、何年か前、健康調査等、
体力調査等のことを聞いたときに、今しゃがめない子たちが多いと、しゃがもうとすると足首や
膝が固いからころんと後ろへ転がっちゃうということで、全部洋式にすることがベストではない
よというようなことを私も聞いたことがあるので、そういうお話も、また含めながら、しながら
進めていくといいのかなあと思います。

○本多教育長 ほかによろしいでしょうか。――氣賀澤委員さん、よろしいですか。

○氣賀澤委員 今のトイレの話ですけど、子どもたちは、生まれたときから割と家がみんな洋式
のトイレなので、学校へ行ってトイレに入れなくて、おなかが痛くなって困るという子がいると
いうのは聞いたことがあって、学校だと大きいほうをしたいと思っても和式だとできないという
ことで、家まで帰ってきてトイレをすとかという子がいるような感じみたいです。それで、ほ
かの部活とかで行っても、トイレに行きたくても和式しかないとやっぱりトイレに入れなくて、
試合中も集中できなかつたりする子もいたりとかして、どっちがいいかというのはよくわからな
いんですけど、家がもうそういうふうになってしまっているんで、子どもたちが悪いというわけ
ではないんですけど、和式ですることがちょっと難しい感じの話は聞きます。

○本多教育長 よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

(2) 行事共催等承認申請の専決処分について

○吉澤教育総務係から説明がされた。

〈説明の要旨〉

今回は、後援が10件、共催は1件、計11件の申請がありまして、全て専決で承認をさせていただきます。いずれも例年出ているような行事となっております。よろしくお願いいたします。
〈質疑・意見等なし〉

7) その他

○北澤教育次長 1点、12月24日の次の定例教委で先ほど係長からも話がありました回答書の案を説明するので、そして、それを修正して1月29日とその次の定例教委なんですけれども、その後、提出して、例年ほかの議題が少ない時期で、一応4時からで、あと、提出をして懇談という形を考えておりますので、お願いします。中身については、校長会とか、そういったところにもかけて回答していきますので、よろしくお願いいたします。その日が新市長の登庁日と、あと、午後、部会長会とかあるんですけど、4時ごろなら大丈夫かなということで、29日を予定しています。

8) 閉会宣言 本多教育長 (午後3時35分)